

チームで仕事をする能力 に関する審査について

一般社団法人 日本技術者教育認定機構
(JABEE)

www.jabee.org

基準1.2 (i) チームで仕事をするための能力

「認定基準の解説」2017年度版の説明文

この項目は、他分野の人を含む他者と協働するための能力を示している。技術者として業務に携わる際には、自己の専門分野以外を専門とする技術者・非技術者と協働して問題解決等に取り組む機会が予想される。エンジニアリング系学士課程においては、グループで実験に取り組む等という経験だけではなく、他分野の人を含む他者と協働することの重要性の認識や協働するための方法に関する知識修得、ならびに、限定された分野や人数であったとしても協働の実践を積んで気づきを得るという、チームで仕事をするための基礎的な知識と能力を身に付けさせることが必要である。このため、個別基準に定める次の内容も参考にして、具体的・教育到達目標が設定されていることが求められる。

- 他者と協働する際に、自己のなすべき行動を的確に判断し、実行する能力
- 他者と協働する際に、他者のとるべき行動を判断し、適切に働きかける能力

2017年度版の説明文の補遺（1）

- 社会に出るとチームを組んで仕事をするのが不可欠であることから、この項目は実際の場面で想定される他分野の人や立場の違う人を含む他者とチームワークを遂行（協働）するための能力を示している。
- 技術者として実際の業務に携わる際には、自己の専門分野以外を専門とする技術者、あるいは役割の異なる非技術者（デザイナー、営業担当者、ユーザ、等々）と協働して問題解決等に取り組む機会が予想されるため、これに類する教育の機会を作ってチームで仕事をする能力を育成することが望まれる。
- エンジニアリング系学士課程においては、グループで行う実験はこれに類する機会であるが、専門分野の限られた人だけによる取り組みであれば不十分であるため、併せて他分野の人を含む他者と協働することの重要性の認識と、協働するための方法に関する知識・スキルを修得する経験が必要である。

2017年度版の説明文の補遺（2）

- そのためには、構成員は限定された分野や人数であったとしても、グループワークを伴う共通教育やエンジニアリングデザイン教育、あるいはインターンシップなど関連する科目を通して協働の実践を積み、分野や立場の異なる他者とチームで仕事をするための基礎的な知識と能力を身に付けさせることが必要である。少なくとも、分野や立場の異なる他者とのチームワークの必要性・重要性に気づきを得ることが必要である。
- このため、個別基準に定める次の内容も参考にして、具体的な学習・教育到達目標が設定されていることが求められる。
 - 他者と協働する際に、自己のなすべき行動を的確に判断し、実行する能力
 - 他者と協働する際に、他者のとるべき行動を判断し、適切に働きかける能力

「チームで仕事をするための能力」に関する審査

次の2つの観点から総合的に評価・判定する

- ・他者との協働に関する知識・気づきの機会の提供
- ・他者と協働する実践機会の提供

※ 根拠指摘事項欄に実態を詳しく記入（実地審査後の調整に必要）

